

## ○執筆者紹介

- ①生年・出身地、②所属、③専門領域、④研究業績、  
⑤奄美と関係した活動  
の順番で掲載しております。

### ■宮廻 甫允（みやさこ としみつ）

- ①1946年・静岡県  
②鹿児島大学法文学部経済情報学科経営情報講座教  
授  
③経営管理論，財務官理論  
④「鹿児島の産業ビジョン」『商工ジャーナル』2001.  
10  
「奄美群島の自立的発展に向けて」『地域経済情報』  
2004. 3（鹿児島地域経済研究所）  
「奄美群島の自立的発展に果たすべき農業の役割」  
『緑地』2004. 4（鹿児島県農業・農村振興協会）  
⑤奄美群島振興開発審議会会長(国土交通省)，あまみ  
長寿・子宝プロジェクト戦略ビジョン検討委員会会  
長（鹿児島県）

### ■北崎 浩嗣（きたざき こうじ）

- ①1960年・佐賀県  
②鹿児島大学法文学部経済情報学科教授  
③地域計画論，農業政策論  
④1)「綾町におけるJAS法改正後の有機認証と総  
合基金制度」『経済学論集』鹿児島大学経済学会  
第56号，2002年  
2)「鹿児島の生協とスーパーにおける有機・特別  
栽培農産物の流通動向」『経済学論集』鹿児島大学  
経済学会 第57号，2002年  
3)「並行在来線先発地域との比較検討からみた“肥  
薩おれんじ鉄道”」『経済学論集』鹿児島大学経済学  
会 第59号，2003年

- ⑤本プロジェクト事務局員

### ■平井 一臣（ひらい かずおみ）

- ①1958年・宮崎県  
②鹿児島大学法文学部経済情報学科地域計画講座教  
授  
③政治史，地域政治論  
④『「地域ファシズム」の歴史像』法律文化社，2000  
年  
『地域から問う国家・社会・世界』（共編著）ナカニ  
シヤ出版，2000年  
『実践の政治学』（共編著）法律文化社，2003年  
⑤本プロジェクト事務局長

## ○人文社会科学研究科名瀬サテ ライト教室（近況）

サテライト教室の開校式が5月17日（月）に名瀬市公民館金久分館で行われた。島嶼での夜間集中型高等教育として注目を集めている。本年度は，経営情報論（萩野誠），日本社会史特論（原口泉），福祉社会学特論（片桐資津子），自治体政策学特論（西啓一郎），中国散文特論（東英寿）の5科目である。講義内容の概要についても本誌で特集を組めたらと考えている。

なお，11月には来年度の開設科目の決定を行うための説明会なども予定されている。日程等が決まりしだい本誌でも紹介したい。

## ○奄美ニューズレター執筆要領

奄美ニューズレターの執筆者は、以下の要領を遵守してください。

## 1. 原稿の分量

- (ア)調査研究レビュー 6 ページ
  - (イ)しまゆむた 2 ページまたは 4 ページ
  - (ウ)島嶼スケッチ 2 ページまたは 4 ページ
  - (エ)鹿大資料紹介 2 ページまたは 4 ページ
- ・ 1 ページは、20文字×40行×2 段＝1600字となっております。

## 2. 原稿の書式

- (ア)基本的には、サンプルをもとにしてWordで執筆願います。
- (イ)写真・表なども、Wordにくみこまれるようにお願いします。
- (ウ)タイトルは、1 段組で 3 行程度におさまるようにしてください。
- (エ)タイトルおよび氏名については英文のものを原稿の最後につけておいてください。裏表紙に記載されます。

## 3. 執筆者プロフィールについて

執筆者は、プロフィールを巻末に載せますので、以下の項目について編集責任者萩野へメールにて送付願います。hg@leh.kagoshima-u.ac.jp

- ① 氏名（よみ）
- ② 生年・出身
- ③ 現職
- ④ 専門領域
- ⑤ 主な業績 3 本まで
- ⑥ その他（島嶼研究に関わることなら）

## 4. 原稿の提出について

- (ア)ニューズレターは、毎月20日発行となります。
- (イ)原稿については、各月号の前月末までを提出期限としております。
  - ・ 例えば、2 月号に執筆の場合 1 月末までの執筆となります。
- (ウ)校正は、1 回だけとさせていただきます。校正の最終期限は15日となります。

## 5. その他

- (ア)執筆者には、ご希望ならばニューズレターを10部送付いたします。
- (イ)抜き刷りは、発行いたしません。

## ○編集後記

■ 与論町町長 南政吾氏より、ご寄稿いただきました。ありがとうございました。また、本号の表紙で使用させていただいた写真は、与論町役場よりご提供いただいたものです。左端から、茶花海岸、ハイビスカス、アイギ浜です。与論島の美しい自然を感じられる写真を、どうぞお楽しみください。

(I)

■ 今月号は、与論町長の特別寄稿、奄美群島振興開発審議会会長の宮廻氏の寄稿、南日本出版文化賞を受賞した皆村武一氏の著書の書評など充実したものとなった。プロジェクト事務局の北崎氏の論考にも奄美の農業関係者からの反応を期待したい。毎月発行という大胆な企画も、無事に第7号をむかえた。今後とも大学・地域からの双方向発信の場として育ってほしい。学問分野ごとに切断された壁を越えて「環境ガバナンス型地域政策」へと結実させていくことができるかどうか、壁への自覚も問われている。地域振興との関わりを意識したプロジェクトであるからには、奄美からの発信、研究内容の検証にも期待したい。沖永良部の創世神話「島建シンゴ」を聴きながら。(U)

研究責任者 山田 誠

奄美ニューズレター

発行 鹿児島大学

編集責任者 萩野 誠

AMAMI News Letter

印刷 南日本共同印刷株式会社